

「伊豆諸島の防災」

東日本大震災の発生から約一年が経過しました。未曾有と言われた大震災ですが、厳しい自然環境の中で過去多くの災害に見舞われてきた伊豆諸島にとっても、決して人事ではありません。

特に東海地震が発生した場合は、管内各島にも、甚大な津波被害が生じる恐れがあります。

東京都は、大震災の教訓を踏まえて、津波被害想定を検証を行い、津波浸水予測等の見直しや、避難誘導の仕組みづくりなど、防災対策の再構築を検討しています。

大島支庁では、これまでも災害時における町村との連絡調整や、治山・砂防などの防災事業、津波軽減効果を併せ持つ港湾漁港施設の整備などにより、災害に強い島づくりに取り組んできました。

引き続き町村と連携しながらソフト・ハード両面における取組みを進めてまいります。

今回の大震災では、住民同士の助け合いが、大きな効果を発揮しました。島には長年培われた地域の連帯感があり、「共助」の精神は、島民の皆さんの間に根付いています。

住民一人ひとりが防災の担い手としての意識を持ち「自助・共助」の取組みを進め、地域の防災力が向上することを期待いたします。



ほうさいキッドくん